
桜の木の下で

夜川サプロー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の木の下で

【Nコード】

N2633B

【作者名】

夜川サブロー

【あらすじ】

高校2年の健二。彼の追憶と現在の物語

ゲンザイ

夜に、久しぶりの夢をみた。幼稚園生くらいのときの夢だった。オレと彼女が桜の木の下で交した約束。

いつも通りの時間に目覚める。身支度をし、歯を磨き、食事を採る。まだ眠気がとれないが、それはいつものことだ。
「行ってきます」

無人の家に、オレの声だけが虚しく響いた。二年前に買ったMTBで、緩やかな坂を下っていく。オレの家もある住宅街は、すぐに見えなくなった。

下り坂、登り坂、平坦なみち……。軽快なスピードで進んで行く。道の途中で、見慣れた姿を発見した。

「よお、悟史しんし」「ああ、健二。おはよう」

振り返ったそいつは、さわやかな笑みを浮かべる。女子が真っ青になるくらいの整ったきれいな顔立ちをしていて、おまけに中性的な性格。男女問わずに人気者な親友だった。

オレはMTBから降り、悟史と歩みをあわせる。

「今日から僕たちも二年生。同じクラスだといいよね」

「まあな」

「でも……」

急に瞳を曇らせ、うつむきがちに悟史が呟く。

「さいちゃんとは同じクラス、もう二度となれないんだよね……」

「悟史」

「……っ。ごめん……」

それからは会話も特になく、高校の前に着いた。

「じゃあ、教室に行こう」

そうして、オレたちはクラスの振りわけを見るために一年時の教室に向かった。

四階まで上り、自教室に。黒板にはクラス分けの掲示が貼られていた。

自分達の名前を探す……。

「あつた」

悟史が最初に発見した。

「ぼくは二組だ。文系進学A」

進学Aというのは、うちの高校では国公立を狙うクラスのことだ。他にも進学B……私立を狙うクラスがある。

「オレは……っと、おおっ!？」

「どうしたの、健二？」

驚いた。単純に。

「へえ、やるね」

オレも、悟史と一緒に二組……進学Aだった。悟史はにっこりと笑い、

「今年もよろしく、健二」

「ああ、よろしく」

「それじゃあ、行こうか？」

「おう」

こうしてオレたちは、高2となった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2633b/>

桜の木の下で

2010年10月17日07時24分発行